

今回、私は、東京研修に参加したことで、視野が広がり、将来に対して大きな希望を持つことができました。順に回想しながら振り返りたいと思います。

1 日目の 8/8 の午前中に、DF(ディレクトフォース)の方々のプログラムで、「世界のグローバル化の中で、どう備えたら良いか？」というテーマのもと、近藤玄大さんの基調講演に加え、22 班に分かれ、生徒と DF の方とのグループセッションを、DF の方が代わりながら、計 3 回行いました。私は以前からグローバル化について興味があり、自分がどのように対応すべきか考える今回のプログラムを準備期間からずっと楽しみにしていました。

近藤さんを含め DF の方々がおっしゃっていたのは、まず共通して「英語をよく学び、現地の人と積極的にコミュニケーションをとってほしい」ということでした。お話を聞いた中でなるほどと思った説明として、「英語ができればインターネットで検索するときの情報量もおのずと増える。」という安達公一さんの言葉でした。確かに、英語や他の言語ができるようになれば、自分の知りたい情報を得ることはより一層できるようになると思いました。後に出てきますが、世界の教育についても興味のある私にとって、英語ができないと情報を得ることは非常に難しいと教えて頂きました。また、自分のことや自国のことを知ることが、異文化交流で大切であるということも教わりました。さらにそれを説明するための論理的思考力や表現力も大切だと教わりました。日々の学習で得られる力は社会に出たときに役立つとよく分かりました。

1 日目の昼下がりには、企業大学訪問ということで、先に提示した通り、教育分野に興味のある私は、日本の教育の行政を担う文部科学省を訪問しました。私は、文部科学省生涯学習政策局社会教育課のお二人にお話を伺いました。地域と学校との連携は、地域によって上手くできているところとそうでないところに分かれていて、どうすべきなのかと疑問だったため、今回の訪問はとてもためになりました。

質問した中で、回答が特に印象深かったものを 2 つ挙げます。「過疎化が進んでいる地域において、地域と地域の子供たちが連携するためにどのような活動が必要でしょうか。」という質問に対して、「伝統文化を継承したり、地域との連携が難しい地域では、率先して地域と学校とが連携すべきです。そういったキャリア教育に惹かれて、その地域に子供が集まったという例もあります。」という回答を頂きました。私は、過疎化が進んでいる地域では、学校と地域との連携は非常に難しく、自分の中でどのような対策をしたらいいのか全く分からなかったのですが、やはり教育行政を担う文部科学省では、きちんと対策案があるということに驚きました。問題処理能力、アイデアといったものが、まだ私には欠如していると感じました。

2 つ目として「仙台で近年いじめによる自殺が増えてしまっていますが、いじめを防ぐために地域で取り組めることとしてどのようなことが挙げられますか。」という質問をしました。これに対しては、「学校を閉じた空間にしないことが大切だと思います。例えば、地域

の人が常に校内にいて児童生徒を見守っているような環境があればいじめは減ると思います。色々な人がいるのが当たり前と認識できるようになれば、人の違いを受け止められるようになると思います。また、地域の人が直接児童生徒の異変を発見できる可能性も高まり、いじめの早期撲滅にもつながると思います。」という回答を頂きました。いじめの原因について考え、地域と連携して撲滅できる、素晴らしい考え方だと思いました。文部科学省では、自分の考え方の狭さを認識しました。もっと様々な文章に触れ、幅広い考え方を身につけたいです。非常に勉強になり、新しい発見のあった濃い1時間でした。

1日目の夕食後に、ホテルの会場にて、二高OBの方との座談会が行われました。ほとんどの方が東京大学に進学していて、貴重なお話を聞く機会となりました。今回、東京大学教育学部の方がいらしていたので、希望する大学生にお話を聞ける4度目の移動時に、教育学部の方のいるテーブルに話を聞きに行きました。東京大学の教育学部は、教員養成ではなく、私の興味のある「教育学」について恵まれた環境下で学べると分かり、理系分野も好きな私の進路選択についてもアドバイスを頂きました。二高に入学できたから聞いた話であって、二高に合格できて良かったと改めて思いました。とてもためになる話ばかりでした。

2日目は、1日を通して東京大学での活動でした。現地では、「Fair Wind」という東京大学のサークルの方々を中心にツアーに参加しました。

まず初めに駒場キャンパスに行きました。最初にキャンパス見学会をしました。駒場キャンパスの敷地内を歩き、様々な建物を見たり、図書館内を見学したりしながら東京大学の雰囲気を感じました。東京大学の敷地は、東京なのに自然がいっぱいで、図書館は蔵書数が900万冊以上で驚きました。渋谷駅から井の頭線に乗ってすぐなので、アクセスもいいと思います。キャンパス見学後、ワークショップがありました。ワークショップは、「進路を見つめ直す」というテーマのもと、グループで進路についての話し合いをし、進路を決める参考にとということで、東大生の方のプレゼンテーションも頂きました。実際にどのように進路を決めたかを知れて良かったです。その後、同じ教室で「東大のことを知ろう」というプレゼンテーションを聞きました。ここでは、東大の魅力について、現役東大生の方に説明してもらい、東大への関心が高まりました。

2日目の午後は、駒場キャンパスから本郷キャンパスへ拠点を移動し、文理に分かれて活動をしました。本郷キャンパスでは、有名な「赤門」を見ることができ良かったです。私は希望進路を文系で提出していたので、文系コースのツアーに参加しました。まずキャンパス見学をしてから、少人数のグループによる個別相談会をしました。主に受験についての話を聞くことができました。高校1年生の段階でそのような話を聞いたことは大きなプラス要素だと思います。その後模擬授業ということで、法学部の模擬授業を受けました。私は法学にはあまり興味がありませんでしたが、聞いていて面白い授業でした。また、大学の勉強はこんなにも深い内容について学ぶのか、と衝撃を受けました。小中高の単調な学習よりも、発展的でとても面白そうだと思いました。そして15:45頃、正門前で解散と

なりました。2日目の1日間は、1日目の座談会で東大に抱いた興味を、ますます深めることができよかったです。

今回の2日間の東京研修では、自分の見ていた世界の狭さを改めて認識しました。そんなことはどこかで分かっていたような気もしますが、東京という大都市で様々な人と関わる中で、自分の無知具合を本当によく知ることができました。

私は昔から、東京方面の大学に行きたいとうっすら考えていましたが、今回の研修で、東京方面の大学への進学は自分にとって当然となりました。仙台は昔から住んでいて、気候も過ごしやすく良い環境ですが、やはり東京の最先端の環境には劣ります。また、大きなことを将来したいならば、東京や海外に積極的に出て行くことは必要だと思いました。高校生の今、今回のこのような貴重なプログラムを経験したことで得たものは大きいです。今後勉強を頑張ろうと思えるような、とても有意義な2日間でした。二高でこのような経験ができてよかったです。今後も継続して、ぜひ後輩にも参加して欲しいです。